

## 2022/12/9 現在のマーケット雑感

原油 WTI は先週末 71 ドル/バーレル水準に。12 月 6 日発表の EIA の 2023 年の予想は年平均で日量 1.2 百万バーレルの余剰。前月よりも余剰の拡大と修正されているのも市場の材料。銅価格は 3 ドル/ポンド台後半での上下動ですが、国際銅研究会 (ICSG) 短期銅需給予測では、生産が増加する一方で世界景気の減速で、2022 年の供給不足から、一転、2023 年は供給不足の 155 千トンの供給過剰との予想になっています。

米国の金融市場に於ける期待インフレ率=Breakeven Inflation rate は 10 年 2.26%、5 年 2.22%で、下方バイアス。

一時 5%まで上昇したギリシャ 10 年国債も米国債とパラレルに動いて、週末は 3.8%。世界経済減速シナリオも、クレジットに関する懸念が拡大する程の影響が出ていません。イタリア国債や低格付け債券も含めて、今の利回りは、今後を甘く見過ぎではないかと考えています。

ドル・インデックスは 9/28 の 115 ポイント手前から先週末は 104 台突入で、約 10%下落。長い目で見ればこれで済むはずもないと思います。

先週末 NASDAQ 終値の高値からの下落率は 31.4%。一時 35%台でしたので、この程度の推移では、ボトム打ちかどうかは、予断を許さないところ。

米国 7-9 月期 GDP 改定に伴う関連指標が先週発表になり、実質時間当たり賃金と非農業部門労働生産性が各々小幅下方修正。

ユーロ圏の小売売上高は 6 月以降連続で前年割れ。

中国消費者物価は 11 月で前年比+1.6%で、8 月以降鈍化継続。

日本の賃金は現金給与ベースで前年比実質-2.6% (10 月) と働く側には厳しい状況継続

12 月に OPEC プラスは生産枠現状維持としましたが、先週末は上記の通り 71 ドル台で 2022 年のサウジ推定財政均衡価格 79.2 ドル/バーレルを下回り、2023 年同予想 69 ドルに近づいています (いずれも IMF 推定)。このまま推移すると減産へのバイアスカかります。実質実効為替の水準は 1970 年近くの水準で、購買力平価の輸出物価基準は対ドルでは 83.41 円なので、現状の為替水準からすれば海外生産を国内生産に切り替える方がメリット大きいでしょう。海外拠点のレパトリエーションは増加すると見ます。国内投資も漸く増えるのでは?これが政府日銀の真の狙いであるという見方をすれば、来年も容易に金利を動かさないという選択肢は十分ありうるのではないかと思う次第。